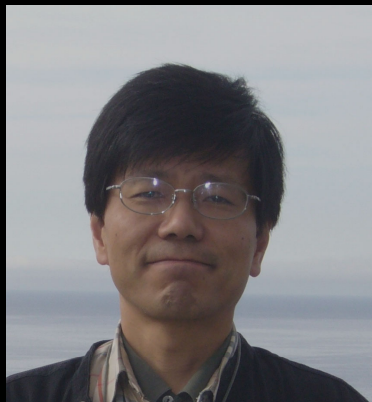


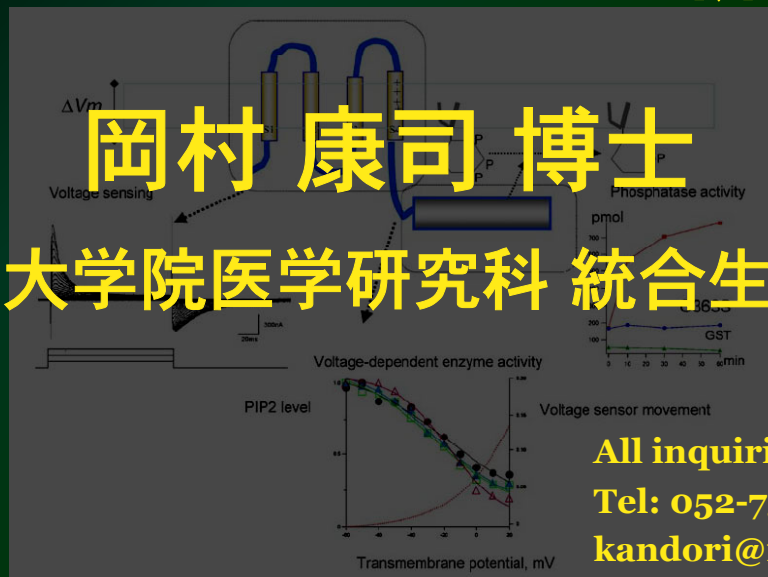
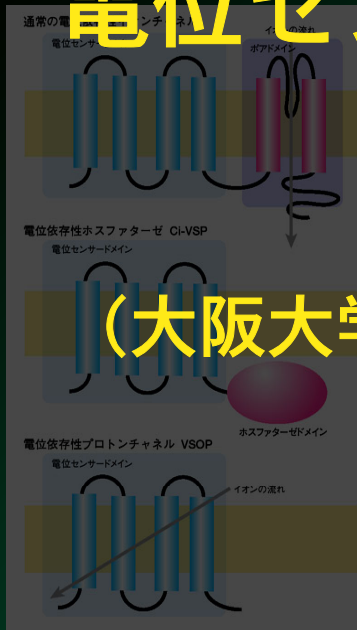


Nagoya Institute of Technology
Physical Chemistry Seminar
Wednesday, May 27, 4:00 PM
1st Bldg, Room 108

電位センサードメインの新たな役割

岡村 康司 博士

(大阪大学 大学院医学研究科 統合生理学 教授)



中日新聞 2005.5.19(木)朝刊 29 面

新タンパク分子発見

不妊症・がん治療に応用期待

京都府立総合医療センターの岡村康司博士が、京都府立総合医療センターの共同研究で、細胞の電位センサーとして働く新しいタンパク質を発見した。このタンパク質は、細胞の電位を感知し、その変化に応じて酵素活性を調節する。この発見は、不妊症やがんの治療に応用される可能性がある。岡村博士は、この発見について、「これは、細胞の電位を感知する新しいタンパク質であり、その機能は、細胞の電位を感知し、その変化に応じて酵素活性を調節する。この発見は、不妊症やがんの治療に応用される可能性がある。」と述べている。

All inquiries to **Hideki Kandori**
 Tel: 052-735-5207
kandori@nitech.ac.jp